

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 阿南市教育委員会
2. 研究主題 : 小規模校を存続させるための教育活動の高度化
※事業計画書「3. 研究主題」と同じ
3. 研究タイトル : 分散型小中一貫教育（チェーンスクール）を活用した活力ある学校教育の推進
※事業計画書「4. 研究タイトル」と同じ
4. 研究課題 : ①少人数のため個々の児童生徒に目が届きやすいというメリットを生かした小規模校における教育活動の活性化。
②チェーンスクールを生かして小規模校のデメリットを削減する合同授業・合同行事等の在り方及び系統的な教育課程の編成。
③経済的効率性を重視しながら小規模校の存続を図る学校間ネットワークの構築。
④地域の教育力の一層の活用による小規模校の教育活動の活性化及び開かれた学校づくり。

※事業計画書「5. 研究課題」と同じ
※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

平成25年度から取り組んできたチェーンスクールの成果と課題を踏まえ、小規模化する学校の教育活動をより活性化させるために、これまで実施してきた合同学習や合同行事等について内容や計画性・系統性の点から検討を行うとともに、小中一貫した教育課程の編成をはじめ、地域の教育資源の活用や、個々の児童生徒の学力の向上等に関する調査研究を行い、地域の教育の一層の充実・活性化を図る。また、本調査研究の取組や成果は、小規模校が学校間ネットワークを構築して学校の活性化を図る方策の普及につながることも、同様の課題を抱えている他の自治体のモデルとなるものとも考えている。

※要点をまとめ、簡潔に記載すること。

(2) 調査研究の実施状況（平成29年度）

4月	
5月	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業推進会議 ・学校評議員や公民館長等から、学校教育の活性化に向けての意見や提案をもらうとともに、平成28年度の取組の成果と課題から、平成29年度の円滑な事業推進に向け大学関係者等から指導助言をもらい、円滑な事業推進に向けての協議を行った。 ○ふれあい防災オーエンターリング ○合同学習、合同行事等の実施による学校教育の活性化に向けた取組の推進（3月まで随時）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○YMCA阿南国際海洋センターにおける海洋学習 ○YMCA阿南国際海洋センター外国人研修生との交流学习
8月	○地域人材の活用（月と惑星の観測会）

9月	<ul style="list-style-type: none"> ○第2回少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業全体会議 ・平成29年度前半の取組を振り返るとともに、平成29年度後半の取組が円滑に進むよう、3校教員で共通理解を図ると共に、今後の取組の詳細について協議を行った。 ○椿・椿泊町保小中合同運動会 ○地域人材の活用（稲刈り体験）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○地域人材の活用（アサギマダラマーキング遠足）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○第2回少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業推進会議 ・平成29年度前半の取組について、大学関係者等から中間評価をもらい年度後半の事業が円滑に推進するように協議を行った。 ○先進地視察（高知県高知市）、先進地視察（奈良県奈良市） ○小中一貫教育実践地区交流研修会（公開授業、取組報告、研究協議等） ○地域人材の活用（椿っ子バザー）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○小規模校の存続及び教育活動の活性化に係る教員研修会 ・地域の方との話し合いを通して、地域の願いを踏まえながら学校教育の活性化を図る方策等について協議を行い、本地域の特性を生かした研究推進等についての研修を行った。 ○ふるさと学習（地域の伝統文化のお囃子体験等） ○半日合同学習 ○県内の学校、教職員等を対象とした「あわ（OUR）教育発表会」で取組発表
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○本調査研究に係るアンケート調査実施
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○第3回少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業推進会議 ・児童生徒、教員、保護者等からのアンケート結果等をもとに、平成27年度からの3年間の本事業の総括を行った。 ○先進地視察（東京都千代田区）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○第3回少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業全体会議 ・平成26年度からの3年間の取組について評価を行うと共に、今後も学校教育の活性化に向けた取組が円滑に進むよう、協議を行う。 ○リーフレット配布

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

①少人数のため個々の児童生徒に目が届きやすいというメリットを生かした小規模校における教育活動の活性化。

授業や全校集会、朝の会等において個々の児童生徒が自分の意見や考えを発表する活動に工夫・改善を加え、思考力・判断力・表現力を備えた児童生徒を育成する。また、個々の児童生徒の学習課題及びその解決方法について時間をかけて検討し、個別指導を充実させ学力の向上を図る。

(成果目標1)

・小規模校のメリットを最大限に生かした取組を授業で実施している教員の割合：100%
(達成状況)

・A：よくしている (50.0%) B：している (50.0%) C：あまりしていない (0%)

全ての教員が、児童生徒一人一人の状況をしっかり見取ることで、各教科等の学習における苦手意識やつまづきを感じている児童生徒に、いち早く対応することができている。そして、個々の特性に合った指導法や支援の仕方について教職員間で共通理解を図り、個別指導を継続して実施することにより、学力の向上を図っている。

(成果目標2)

・小規模校のメリットを最大限に生かした指導方法の事例：収集

(達成状況)

県内7地区で開催された小中一貫教育に関わる実践地区交流会への教職員の派遣や先進地視察(全国へき地教育研究大会高知大会・「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム徳島会場・小中一貫教育小規模校全国サミットin 田原・教育課程研究指定校事業研究協議会等)を通して、小規模校のメリットを最大限に生かした指導法の事例収集に努めた。また、TV会議システムを活用した授業を参観し、意見交換を行う機会を設けるなどして、指導方法の研究を進めている。

(成果目標3)

・授業等で、個々の児童生徒が自分の意見や考えを発表する活動に工夫・改善を加えた教員の割合：100% (教員に対するアンケート)

(達成状況)

・児童生徒が工夫した発表ができるような授業支援や授業改善をしている教員の割合

A：よくしている (18.2%) B：している (77.3%) C：あまりしていない (4.5%)

学習時に発表ボードを活用し、自分の考えを練り意見交換する活動や、朝会・学級活動等あらゆる場面で発表の機会を増やす取組を継続してきたことで、児童生徒の思考力や表現力が身に付き、自信をもって堂々と発言する児童生徒が増えている。

(成果目標4)

・発表のとき、話の組立を工夫している児童生徒の割合：80% (教員に対するアンケート)

(達成状況)

・発表のとき、話し方を工夫している児童生徒の割合

A：よくしている (9.1%) B：している (54.5%) C：あまりしていない (36.4%)

前年のアンケート結果とほぼ同様の結果で、目標の80%には届いていない。授業中だけでなく、朝会や全校集会等を捉え、一人一人が前に出て発表する機会を多く設けるようにしたことで、相手に伝わるように工夫して発表できる児童生徒が増えてきた。しかし、約3割の児童生徒は、発表内容の構成や答えの根拠を説明することが難しく、聞き手に分かりやすく伝える工夫をするところまで至っていない。

②学校間ネットワークを生かして学習集団の広がりや学習内容の深まり等を図ることにより小規模校のデメリットを削減し、学校教育を活性化する教育内容の在り方。

すでに構築されている学校間ネットワークを生かした取組を進めるとともに、合同学習については学習内容や指導方法について次のような点から検討を加え、教育内容の充実を図る。

- ・多くの人と協働して課題解決にあたり、何かを達成するという場面の工夫。
- ・多くの人意見や考えを聞き、意見や考えの広がりや深まりを図る場面の工夫。
- ・多くの人とコミュニケーションを図る場面の工夫。

(成果目標1)

・合同学習、合同行事の実施により、集団が大きくなることで、多様な学びや経験ができていていると感じている児童生徒の割合：100%

(達成状況)

・合同学習、合同行事を行うことで、多様な学びや豊かな経験ができていていると感じている児童生徒の割合：100% (アンケート及び聞き取り調査の結果による)

・合同学習における学習内容や指導方法についての検討：実施

・成果目標達成のために、合同学習・合同行事を積極的に実施し、児童生徒に多様な学びや豊かな体験の機会を多く設けた。主な取組は次のとおりである。

6月20日	小中合同行事として、ふれあい防災オリエンテーリングを実施した。防災の視点から保護者とともに地域について学び、判断力・行動力・共助心の育成を図った。
6月12日	中学校英語教員が教科の専門性を生かし、椿小学校の児童に外国語活動の出前授業を行った。この授業には中学1年生も参加し、児童生徒の交流による学び合いの場を設けることにより、学びの広がりや深まりを図った。
6月28日	中学校英語教員が教科の専門性を生かし、椿小学校の児童に外国語活動の出前授業を行った。この授業には中学2年生も参加し、児童生徒の交流による学び合いの場を設けることにより、学びの広がりや深まりを図った。
7月6日	地域にあるYMCA阿南国際海洋センターにおいて、椿小学校及び椿泊小学校児童が合同海洋学習を行った。様々な海洋体験学習を両校児童が協力し合って行い、協調性や社会性の育成が図られた。
7月7日	
9月13日	椿・椿泊町合同運動会に向けて、3校が合同で練習や打ち合わせを行った。異年齢の縦割り班でチームを組み、お互いに協力し合い、また競い合う中で、3校児童生徒が励まし支え合う姿が随所に見られた。
9月16日	
9月18日	地域の方や保育園児も交えて、椿・椿泊町合同運動会を実施した。準備や運営など多くの役割を児童生徒が協力して行い、地域の中で責任ある仕事を任されるという経験が社会性やリーダー性を育むよい経験となった。
10月4日	テレビ会議システムを使い、椿町中学校3年生が総合的な学習の時間に積み重ねてきた防災についての学びをもとに、中学生による防災出前授業を行った。授業の中では防災クイズや、防災に関する本の読み聞かせを行い、3校児童生徒の防災意識の向上に役立った。
11月6日	3校合同防災学習を実施した。東日本大震災の支援ボランティアに参加した経験のある中学校長の体験講話をもとに、3校児童生徒が防災についての学びを深めた。
12月2日	地域の方や保護者が多数参加する椿支部人権教育研究大会において、3校児童生徒がそれぞれ工夫をこらした人権劇を発表した。地域全体の人権啓発に取り組むことで社会の一員としての自覚や責任感が育まれた。
12月15日	椿小学校、椿泊小学校の高学年児童が椿町中学校に集まり、小中合同で外国語活動・英語、音楽、体育の合同授業を行った。中学校で学習することで、小学生は中学校の授業についてのイメージをもつことができ、また中学生は小学生に教えることで学びに対する主体的な態度の育成が図られた。
1月23日	椿町中学校2年生が椿小学校にて、両校高学年児童を対象に新聞を活動した出前授業を行った。自らの学びや経験をもとに、新聞を通して広く世の中の動きに目を向けることの大切さを、中学生が小学生に伝えるこの授業は、社会性の育成などに大きな効果があった。
1月24日	椿小学校、椿泊小学校の児童が合同でマラソン記録会を行った。椿泊小学校校区にはマラソン記録会ができるような広い道路がないため、他校の立地環境を活用して行うこの取組は椿泊小学校児童にとって貴重なものであるとともに、両校児童にとっても集団規模が大きくなることで競い合いの精神の高揚も図られるなど、高い教育効果の得られる取組となった。

1月30日	<p>自転車で世界を旅している冒険家の方を講師として招き、午前は両校児童対象に、午後は中学生対象に講演会を行った。児童に対しては国際教育や人権教育の視点からの講演、また中学生に対してはキャリア教育の視点からの講演が行われ、それぞれの発達段階に応じた深い学びがあった。</p>
<p>(成果目標 2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同学習における学習内容や指導方法についての検討：実施 <p>(達成状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同学習における学習内容や指導方法についての検討：実施 ・児童生徒がより効果的な学びを得られる学習内容及び指導方法について検討を行った結果、次のようなことについて留意しながら指導を行うことが重要であることがわかった。 <ul style="list-style-type: none"> ○授業や活動の中では、異校種、異学年の縦割り班を設定するなどして、幅広い年齢の仲間と協働して問題解決にあたる場面を多く設定する。 ○発達段階の違う多くの意見や考えを聞き、意見や考えの広がりや深まりがある場面設定を工夫するとともに、相手意識をもって考えを深めたりまとめたりするような情意面の指導も継続的に行う。 ○効果的に授業や行事を行うために、事前に各校教員が情報交換を行い、班編成、これまでの学習内容の定着状況、授業の進め方等について共通理解を図っておく。 <p>小規模校同士の小中連携や小中連携は、学習形態の多様化や、学びの広がり、深まりに大きな成果があっただけでなく、児童生徒の互いの関係を深め、小中の接続期の困難さを軽減することに有効であった。また、教員同士が連携を深めることにより、児童生徒の情報共有や効果的な指導の実施にもつながった。</p>	
<p>③経済的効率性を重視しながら小規模校の存続を図る学校間ネットワークの構築。 学校施設・教材・教具の共有、人材の相互有効活用、ICTの活用等による教育活動の活性化について調査研究を行う。</p>	
<p>(成果目標 1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材の相互有効活用により経済的効率性を図る取組の実施回数：10回（中学校の英語、音楽等の教員による出前授業） <p>(達成状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材の相互有効活用の実施回数：17回 小学生を対象とした外国語活動や算数・音楽・体育・NIE・防災学習等で中学校教員の専門性を生かした授業が展開された。外国語活動では、中学校教員とALTによる出前授業やTV会議システムを活用した乗り入れ授業、小中合同学習等を実施した。児童の英語への関心が高まるとともに、教科としての「英語」に対する不安も軽減されている。また中学生にとっては、リーダー性を育成するよい機会となっている。算数・音楽・体育の合同学習でも、小学生の実態を通して中学校教員の児童理解が進んだ。児童は専門的な指導を受けることで学習に意欲的に取り組むことができた。 	
<p>(成果目標 2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して経済的効率性を図る取組の実施回数：15回（外国語活動等の授業、児童会・生徒会の交流等） <p>(達成状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した合同学習11回、児童生徒交流14回、職員研修・会議・打合せ等16回 合計使用回数41回（平成30年2月1日現在） TV会議システムの活用法についての研究が進んだことで、使用頻度は昨年度とほぼ同様の結果であったが、内容に広がりが見られた。交流学習では、TV会議システムを活用することで、より大きな学習集団での学びが可能になり、多様な意見や考え方に触れることができ、学びに広がりや深まりが生まれている。机や黒板の配置等、学習を重ねる度に教員間で意見交換を行い、より効果的に学習を展開するための改善点が示され、教員のICT活用能力も向上した。児童生徒交流では、各校が当番制で情報発信を行い、合同行事の感想や意見の交流、学習成果の発表等工夫を凝らした幅広い内容で交流が展開された。交流活動の広がりや、中学進学に伴う学習や人間関係の不安の解消につながり、中学校への円滑な接続が図られている。また、自校に居ながら教員間の研修や打合せ等でも活用の回数が増えたことで、出張を減らし、公務の効率化が図られた。そのため、教員が児童生徒と向き合う時間をより多く確保でき、時間の有効活用にも役立っている。これらの取組は、各校のコーディネーターが中心となり、教科部会（算数・数学、外国語活動・英語、体育）や教科外部会（NIE、養護等）の取組が円滑に進むよう連絡調整を行うことで、学校間ネットワークの推進が図られた。 	

④地域の教育力の一層の活用による小規模校の教育活動の活性化及び開かれた学校づくり。
地域の教育資源を一層活用することにより、教育活動のさらなる活性化及び開かれた学校づくりを図る。

(成果目標 1)

・地域人材を活用した取組：10回

(達成状況)

・地域人材を活用した取組：10回

地域で活躍している方や地域の歴史等に詳しい方を講師として招き、地域を深く知るために行った主な取組を次のようなものである。

6月6日	地域にある蒲生田海岸に上陸・産卵するうみがめについての学習を、うみがめの生態について詳しい地域人材を講師として招き、小中学生が合同で学習会を行うことにより、自然愛護の精神の醸成や、主体的に環境保護に取り組もうとする意欲の育成を図った。
6月21日	地域の重要な産業である漁業についての学びを深めるために、椿小学校、椿泊小学校児童が合同で漁協見学を行った。見学の際には、漁協に勤務している方から、仕事の内容や地元の海産物等について教わった。
7月18日	地域にあるYMCA阿南国際海洋センターの協力を得て、同センターに滞在している外国人研修生との交流の機会をもった。小中学生が中心となって様々な企画を考え取り組んだこの交流会は、国際社会を生きる児童生徒にとってグローバルな視野を広げる貴重な機会となった。
8月29日	天体や惑星について詳しい地域人材を講師として招き、天体観測会を実施した。児童生徒にとっては、天体に関する学びが深まっただけでなく、夜空に輝く星の輝きを通して、地域の自然の豊かさを改めて知るよい機会となった。
9月14日	農業について詳しい地域人材を講師として、椿小学校、椿泊小学校児童が合同で稲刈り体験を行った。カタワクと呼ばれる道具を使っての稲刈り体験により、児童は昔ながらの稲刈りを知ることができ、また生産者の苦労や食に対する感謝の気持ちが児童の中に育まれた。
10月31日	アサギマダラについて詳しい地域人材を講師として、アサギマダラの飛来地である明神山へ児童が行き、アサギマダラの捕獲及びマーキング活動を行った。
11月24日	椿小学校で行われたバザーに地域人材を招き、運営や準備等について手ほどきを受け、児童が主体的にバザーを行った。
12月5日	地域に古くから伝わる佐田神社秋季大例祭で演奏されるだんじり囃子の練習や、郷土の歴史についての学習を3校合同で地域人材を招いて行った。伝統や文化に触れるこうした活動は、児童生徒にとって、自分たちが生まれ育ったふるさとのよさや、伝統文化を引き継ぐことの大切さなどに改めて気付くよい機会となった。
1月17日	地域で活躍する地域人材を講師として招き、椿町中学校でキャリアについて考える学習会を中学生対象に行った。講師の話を通して、生徒は将来の夢や進路について考えを深めた。
1月24日	椿町中学校生徒が、地域のセニアクラブ（老人会）の方とグランドゴルフ交流を行った。この交流を通して、高齢者から地域のことについて多くの学びを生徒は得ることができた。

(成果目標 2)

・地域への学校だより等情報発信の回数：6回

(達成状況)

・地域への学校だより等の情報発信回数：6回

・3校合同で「チェーンスクール通信」を作成し、2ヶ月に1度、全町家庭に新聞折込として配布している。また各校から学校だよりを、年に10回発行しており、地元の公民館や郵便局、地元の「憩いの場」等に置き、地域への情報発信に努めている。また、各校のホームページからの情報発信も積極的に行った。

(成果目標3)

- ・地域の人材活用バンクの作成及び更新：更新

(達成状況)

- ・地域人材活用データバンクの作成及び更新：更新

地域人材活用データバンク「椿っ子応援団」を作成・更新し、各学校における学習や、合同学習等の講師として活用している。現在登録されている27の個人や団体について、さらに情報を収集するとともに、共同活動を継続・深化させている過程であり、地域の意識は「応援団」から、学校教育への「当事者」に変わりつつある。この地域の方々の思いを深く受け止め、3校が地域の核となる存在になり、そのことが学校教育のみならず、地域再生につなげていけるよう、地域との更なる連携の推進に努めたい。

(2) 成果物等

リーフレット

「ES-JHS Joint Education 2017 in Tsubakimachi ふるさとに誇りを持ち 笑顔と元気があふれる 椿っ子の育成 ～ 分散型小中一貫教育 (チェーンスクール) を活用して～」

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

※成果物(冊子・パンフレット等の印刷物)については、10部添付すること。

※成果物(冊子・パンフレット等の印刷物)の電子媒体がある場合は、併せて送付すること。

(3) 今後の取組予定

平成29年度は、平成27年度及び平成28年度の取組の成果と課題をもとに、機動性・柔軟性に富むという小規模校のメリットを生かしながら教育内容の工夫改善を引き続き行い、地域との連携を図りながら学校教育の活性化に取り組んできた。その結果、成果目標についてはおおむね達成することができた。本事業は平成29年度をもって終了予定であるが、この3年間の事業で得た成果をもとに、平成30年度以降も地域との連携強化や、個に応じた指導のいっそうの充実を柱に据え、これまでの取組を精選・充実させながら、小規模校の活性化に向けた取組を進めていきたい。

※要点をまとめ、簡潔に記載すること。